

第9回メディカルスタッフのための感染対策セミナー
(2016.5.30)

使った後どうするの？ ～洗浄・消毒のコツ～

公益財団法人小倉医療協会
三萩野病院

柏木恵子

使用後の器材の処理

【処理方法】

洗浄・消毒・滅菌

【目的】

適正な処理を行うことで、器材が感染源とならないようにする

洗浄・消毒・滅菌の定義

洗浄	あらゆる異物（血液・体液等の汚れ・細菌等の微生物など）を物理的に除去すること
消毒	細菌芽胞を除く多くの微生物を殺滅すること
滅菌	すべての微生物を殺滅除去すること

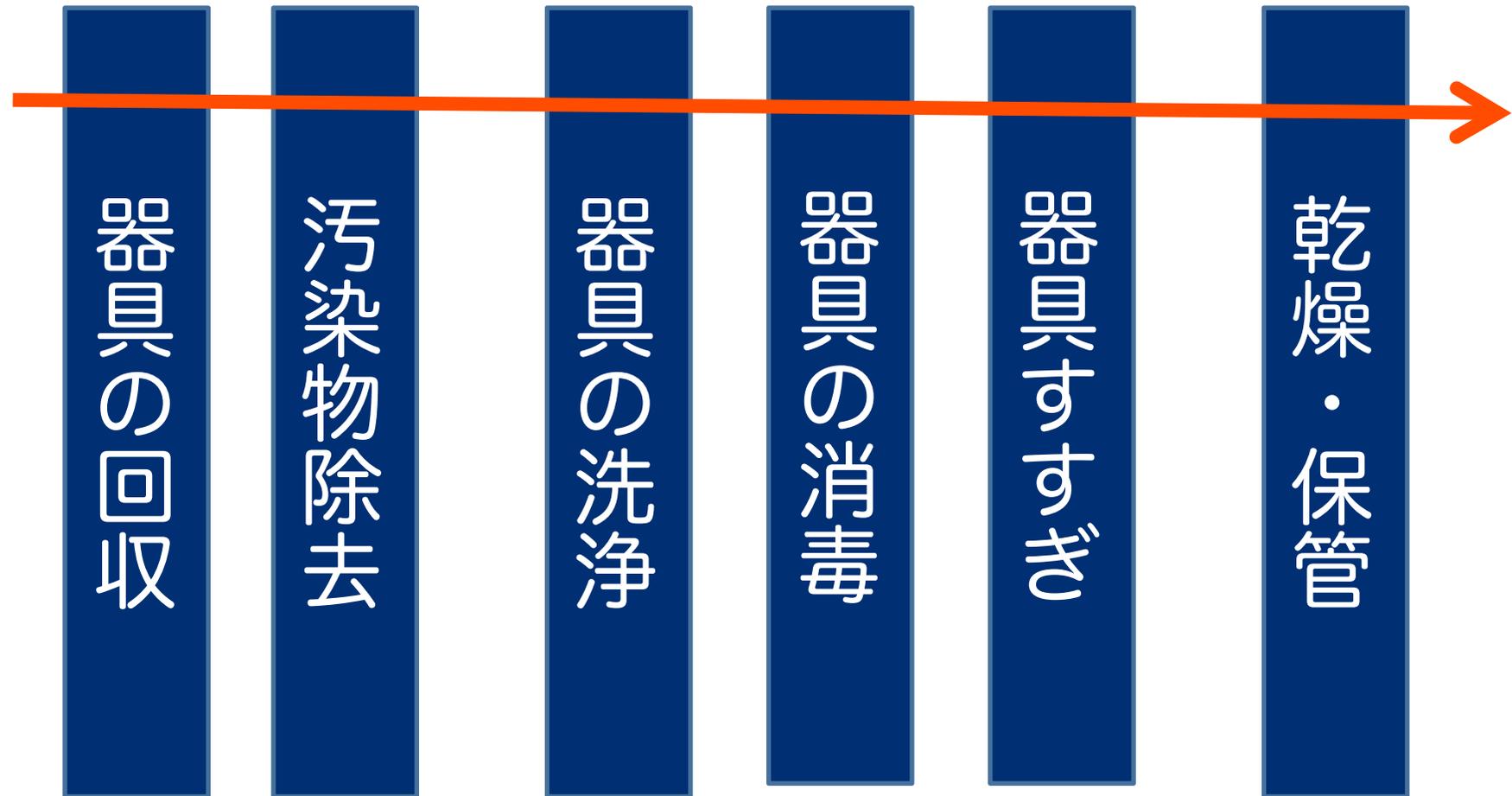
器材の使用目的に応じた処理方法

器材の用途	例	処理方法
無菌の組織や血管に挿入する	手術用器材、血管内留置カテーテル、針など	滅菌
粘膜または健常でない皮膚に使用する	消化器内視鏡、喉頭鏡など	高水準消毒 (一部中水準消毒)
健常な皮膚と接触するが粘膜とは接触しない	尿便器、血圧計のマンシエット、テーブル上面など	洗浄 低水準消毒

消毒薬の分類

分類	消毒薬の例	商品名の例
高水準 消毒薬	グルタラル 過酢酸 フタラル	ステリハイド アセサイド ディスオーパ
中水準 消毒薬	次亜塩素酸ナトリウム ポビドンヨード 消毒用エタノール	ミルトン、ピューラック クス、 イソジン、プレポダイ ン
低水準 消毒薬	グルコン酸クロルヘキシジン 塩化ベンザルコニウム 塩化ベンゼトニウム	ヒビテン、オスバン、 ザルコニン、ハイアミ ン、 ハイジール

器具の洗浄・消毒・保管



洗浄の重要性

- ・適切な洗浄は、器材表面に付着した菌数を99.9%減少させることができるといわれる。
- ・不十分な洗浄により汚れが残ると、消毒薬や滅菌の効果が減弱する。



洗浄は最も基本的で重要な工程

洗浄のポイント

- ・ 分解できる器材は、可能な限り分解する。
- ・ 水はねによる汚染物の飛び散りを防止するために、溜め水の中で洗浄する。
- ・ ブラシ等を用い、内腔までしっかり洗浄する。



飛び散り防止のため
流水を直接器材に
当てないようにする

洗浄ブラシ・スポンジの管理

- ・ 洗浄ブラシやスポンジは、細菌等の汚染を受けするため、使用後は洗浄し、乾燥させる。
- ・ 変色した物や古くなった物は交換する。
- ・ スポンジは交換頻度を決めておく。



スポンジに交換日を記入

消毒の三原則は濃度・時間・温度

濃度の管理	消毒薬を計測し、規程の濃度を守る
時間の管理	タイマーを使用する
温度の管理	機械による熱水消毒は適切な温度設定をする
消毒法の例	①0.01%の次亜塩素酸ナトリウムに 60分浸漬消毒 ②80°Cで10分の熱水消毒

浸漬用の容器も大切

- ・ 器材全体が浸漬できる大きさの容器を選ぶ。
- ・ 蓋付きの容器を使用する。

理由

①次亜塩素酸ナトリウムは、揮発による曝露で
粘膜刺激を起こす。

②揮発により消毒薬の濃度が低下する。

- ・ 次亜塩素酸ナトリウムは、温度の上昇や日光で濃度が低下するため、容器は日が当たらない換気の良い場所に設置する。

浸漬消毒のポイント

- ・ 器材の空気を抜き、全体を浸漬させる。
- ・ 落とし蓋を使うと浮き上がりを防止できる。



キョーリン製薬ミルトンホームページより引用

http://www.milton.jp/nursing/contents/cont_a_01.html

© KASHIWAGI, K. MSC.2016

乾 燥

- 消毒薬をすすいだ後、濡れた状態が続くと、細菌繁殖の原因になるため、できるだけ速やかに乾燥させる。
- 水が切れやすいように立てておく。
- 乾燥機を利用する。



保管のポイント

- ・ 消毒後の器材は、埃や落下菌などによる汚染防止のため、扉のついた棚や引き出しの中、あるいは蓋付きの容器に保管する



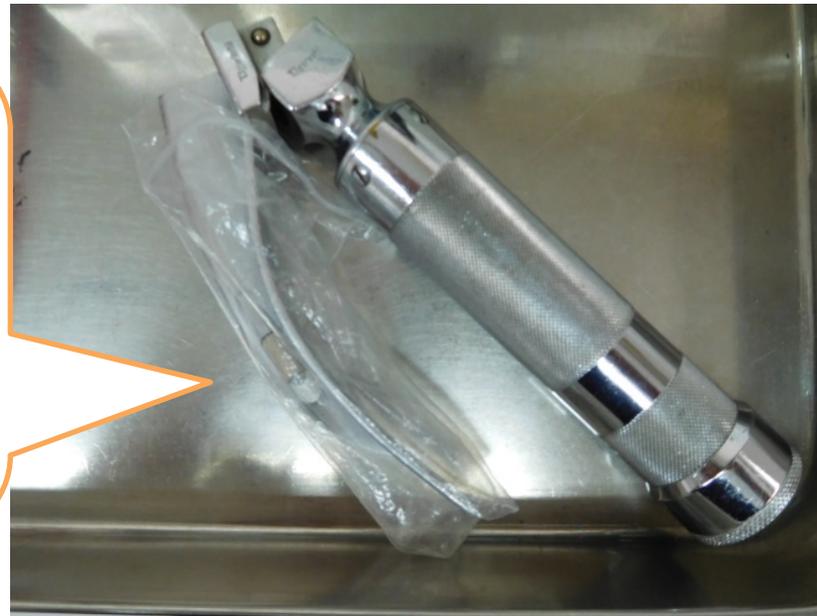
汚物処理室に保管する器材は、水はねを受けない場所に保管する



【悪い例】
消毒後の尿器をシンク
や汚水槽のそばに置いて
いる

喉頭鏡のブレードは、ビニール袋などでカバーして、清潔を保つ。

日常の点検は、手指衛生の後、ビニール袋の上から行う



ケア用品の消毒の実際

血圧計

- ・マンシエットを消毒する場合は、熱水消毒、または次亜塩素酸ナトリウム（0.01%・60分以上か0.1%・30分以上）、または両性界面活性剤（0.1%・30分以上）に浸漬消毒する。
- ・ゴム球は、水拭きまたは消毒用エタノールで清拭する。

口腔ケア用品

- ・ 歯ブラシ等は個人用とし、使用後に洗浄、乾燥させる。
- ・ 変質・変色している物は交換する。
- ・ ガーグルベースンは、熱水消毒または次亜塩素酸ナトリウム（0.01%・60分以上か0.1%・30分以上）または両性界面活性剤や塩化ベンザルコニウム（0.1%・30分以上）に浸漬消毒する。

尿器・便器

- ・ベッドパンウォッシャーで熱水消毒する浸漬消毒の場合は、次亜塩素酸ナトリウム（0.01%・60分以上か0.1%・30分以上）を使用する。

- ・ポータブルトイレは、バケツ部分を上記いずれかの方法で消毒し、外側は0.1%次亜塩素酸ナトリウムを含ませたクロスなどで湿式清掃を行い、10分後に水拭きする。

陰部洗淨ボトル

- ・ 陰部洗淨ボトルは一人ずつ交換する
- ・ 熱水消毒または次亜塩素酸ナトリウム (0.01%・60分以上、0.1%・30分以上) に浸漬消毒する

使用時に、排泄物や腸内細菌の汚染を受けするため、使い回しは院内感染の原因になる

オムツ交換車を使用する場合

- ・オムツ交換車は使用しないことが望ましい。

理由

- ① 手指衛生が徹底できないおそれがある
- ② 使用前後の物品が混在するおそれがある
- ・オムツ交換車を使用する場合は、使用前のオムツ・手袋・陰部洗浄ボトル等と使用後の物品が混在しないように配置する
- ・オムツ交換終了後、オムツや使用後の防護具を速やかに廃棄し、オムツ交換車を消毒用エタノールで清拭する

経管栄養剤の投与セット

- ・ ボトル型の容器は、洗剤で洗浄後、温湯や熱湯ですすぎ、乾燥させる。
- ・ バッグ型の容器およびチューブは、洗浄後チューブ全体へ0.01%次亜塩素酸ナトリウムを満たし、使用の直前にすすぐ。
- ・ 栄養チューブのシリンジは先端が乾燥しにくいので、チューブと同様の消毒をする。

入浴介助用品

- ・入浴用ストレッチャー・シャワーチェアーは、できればスポンジ状素材の物は避ける。

理由

スポンジ状素材は乾燥に時間を要し、微生物の汚染を受けやすい。

- ・使用後は、全体を両性界面活性剤（0.2%ハイジールなど）で洗淨を兼ねた消毒を行う。

- ・可能ならスポンジ部分を洗淨後に取り外し、乾燥させる。

シンプルな構造の方が洗淨しやすい



まとめ

- ・ 洗浄は使用後の器材処理の基本であり、消毒を有効にするために重要である。
- ・ 消毒を実施する時は、濃度・時間・温度の三原則を守る。
- ・ 消毒後の乾燥・保管までが、器材の清潔を保持するための工程である。